

大森老人ホーム便り

ほほえみ

第22号 令和8年7月発行

社会福祉法人東京蒼生会
養護老人ホーム大森老人ホーム

〒143-0011
東京都大田区大森本町2-2-2
TEL 03-3762-8851
FAX 03-3762-8920

熱中症対策

今年も暑い夏がやってきました！
昨年度より職場における熱中症対策が法的に義務化され、施設も徹底した安全対策が求められています。

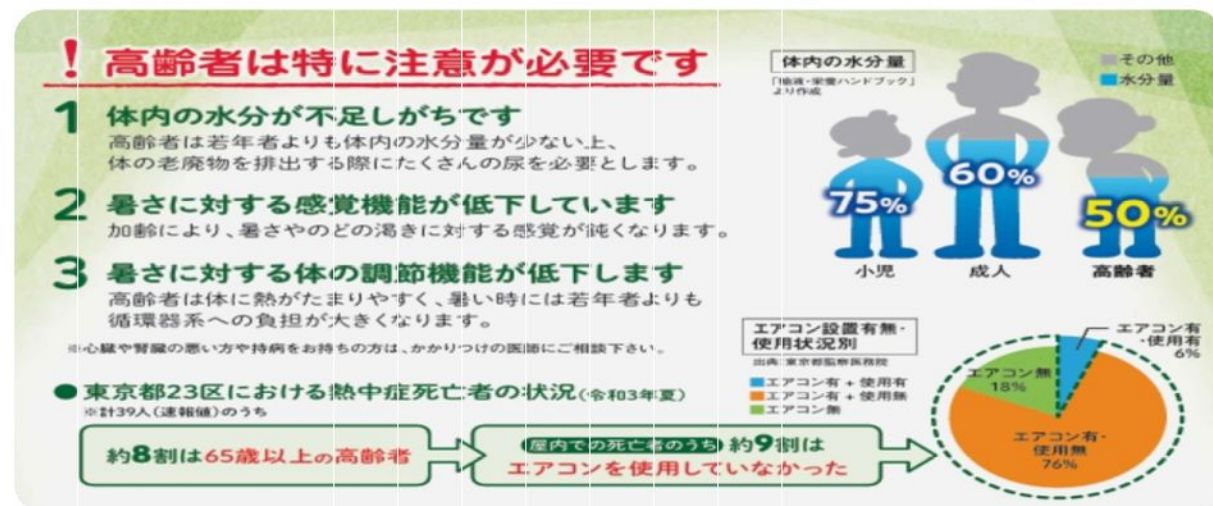
【施設内の取り組みとして】

本年度も「イオン水」の提供実施致します。2階のご利用者は食事の前後、3階・4階へは浴室前セットしています。イオン水に限らずこまめな水分補給をお願いいたします。また、職員へも熱中症対策実施しており、スポーツドリンク・麦茶・塩分タブレット準備し適時摂取可能な環境整備に努めています。



【厚生労働省ホームページより注意喚起】

熱中症は屋外だけでなく、室内でも昼夜問わず発生します。こまめな水分補給と適切な室温調整を行い、体調の変化に早めに対応できるようご注意ください。



お知らせ事項



冬布団を回収し、夏布団へ入れ替えています。引き続き皆様の快適な環境維持のため、引き続き季節ごとの寝具管理を徹底いたします。

衣類品販売

施設内にて衣類販売会を開催し、72名のご利用者に来場いただきました。実際に商品を手に取り、質感やサイズを確認しながらお買い物を楽しんでいただく機会となりました。多くのご利用者様にご満足いただけた様子が見られ、大変好評でした。

今後も、皆様の生活に役立つ商品をご紹介できるよう工夫を重ね、より魅力的で充実した販売会の実施に努めてまいります。



今日、この日から夏バテ防止のため、お茶会を開催いたします。お茶会では、お茶、お菓子、お花、お飾りをご用意しております。お茶会は、お茶、お菓子、お花、お飾りをご用意しております。お茶会は、お茶、お菓子、お花、お飾りをご用意しております。

4階 清水千枝子氏
4階 前尾邦子氏
4階 伊藤あけみ氏
4階 藤崎しづ子氏

◆入所状況
(令和8年6月末現在)
在籍者 129名

活動報告

梅ジュース作り

ご利用者で作業を分担し、協力しながら梅ジュースづくりを行いました。
完成まで数か月かかりますが、出来上がりが今から楽しみです。



菖蒲湯

5月5日、菖蒲湯を実施しました。
香りのよい菖蒲に包まれ、皆さまからは「気持ちが落ち着く」と好評でした。季節の風習を楽しみながら、心身ともにリフレッシュしていただけた時間となりました。



認知症サポーター養成講座

平和島包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」を開催しました。ご利用者の方々だけでなく、地域の皆様や関係者の方々との温かな交流が生まれました。認知症への理解が深まるだけでなく、介護者を支える大切さについての話もあり、支え合いの輪が広がる時間となりました。
地域と施設が一緒に学び合う、心温まる講座でした。

終戦記念日

今年は、1945年8月15日の終戦から81年を迎えます。当時を経験されたご利用者の皆様から、戦時中や終戦当時のお話を伺いました。

①2階 Oさん

私は朝鮮で生まれ、幼いころは満州で過ごし、終戦を迎えました。子どもながらに覚えているのは、とにかく物がなかったことです。食べ物も着る物も不足し、体が不自由だった私にとって、戦後の混乱期に両親がどれほど苦労したか、想像してもしきれません。周りの人たちは皆、生きること精一杯で、私はどこへ行っても取り残されたような気持ちになることが多くありました。そんな中で、音楽だけは私の心を自由にしてくれる存在でした。

今の若い人には遠い昔の話に聞こえるかもしれませんが、今の日本の平和がどれほど尊いものか、時には思いを巡らせてほしいと感じます。でも私だって、施設で不自由なく暮らせる今は、この生活が当たり前に慣れてしまい、時々人に当たってしまい反省することがあります。人を傷つけることも、平和を大切にすることも、どちらも同じ人間がしていること。
戦争は、人間を人間でなくしてしまうところが何より恐ろしいのです。毎日流れる事件や事故のニュースを見ると、ふと「今の日本は本当に平和なのだろうか」と考えることがあります。

②4階 Iさん

100歳が近づき、長く生きてきたものだと感じます。この年齢になると、太平洋戦争の頃の話をよく尋ねられます。私は秋田の小さな集落の生まれで、当時は20軒ほどの家がありました。食べ物に困ることも空襲を受けることもなく、戦後も近所同士で衣類や生活用品を融通し合い、大きな苦労はありませんでした。そのため「戦争を語る資格はないのでは」と思うこともあります。が、戦後の混乱を苦労して乗り越えた人だけでなく、私のように幸運に恵まれた人もいたことを知ってほしいのです。
時折、大声をあげたり他人の悪口を言う利用者を見ると、「あの方の心は毎日が戦争のようなものかもしれない」と感じます。平穏な心を持つ人が増えれば、もっと穏やかで平和な社会になるのではないのでしょうか。